

令和2年度第5回教育研究評議会議事要旨

日時 令和2年9月18日（金） 16時03分～17時37分
場所 大学本部2階大会議室
出席者 学長，渡理事，山下理事，寺本理事，樫澤人文・社会科学域長，豊田自然科学域長，末岡医学域長，板橋教育学系長，吉住芸術学系長，山下医療系長，小林農学系長，岩本全学教育機構長，大島附属図書館長，高棕総合分析実験センター長，甲斐評議員，荒木評議員，青木評議員，後藤評議員，一色評議員
欠席者 中村評議員
陪席者 佐々木監事，山崎事務局長

○ 審議事項

1. 審議事項

2. 大学機関別選択評価事項Bの受審について

只木評価室長より，本件について，大学の個性の伸長及び特色の明確化を目的とした評価であり，受審の義務はないが，前回（平成27年度），認証評価を受審した際に，選択評価事項B（地域貢献活動）を同時に受審し高い評価を得ていることから，令和3年度に，大学改革支援・学位授与機構の認証評価と併せて受審する旨，説明があった。次いで，選択評価B（地域貢献活動）における前回と今回の比較及び記載事項のチェックリストについて説明があり，審議の結果，了承された。

3. 審議事項

4. 佐賀大学学則，佐賀大学大学院学則の改正並びに佐賀大学検定料免除規程の新規制定について

学務部長より，本件について，近年，九州内において災害が発生する頻度が多くなりつつあることから，本学に出願する志願者のうち，被災した者の経済的負担を軽減し進学機会の確保を図ることを目的として，国の災害救助法が適用された地域から出願する被災した志願者については，包括的に検定料免除を行えるよう，恒久的に定めるため，所要の改正を行い，かつ，その細則となる検定料免除規程を新規制定する旨，佐賀大学学則及び佐賀大学大学院学則の改正案，佐賀大学検定料免除規程案について説明があり，審議の結果，了承された。

5. 佐賀大学プロジェクト研究所規程の一部改正について

寺本理事より，本件について，国際社会において，持続可能な開発目標（SDGs）が叫ばれており，今後，本学の研究においてもSDGsへの取組姿勢を積極的に発信することが望まれることから，「佐賀大学プロジェクト研究所」を「佐賀大学SDGsプロジェクト研究所」へ名称変更を行う旨，海外へ研究を展開し，国際貢献となるプロジェクトに対応するため，プロジェクト設置期間に係る主たる分野に「国際貢献 3年」を追加する旨，説明があり，審

議の結果、了承された。

6. 共同研究に係る間接経費率の改定（規程改正）及び増収分を原資とした有効活用方策並びにそれに伴う外部研究資金のオーバーヘッドの見直しについて

寺本理事より、本件について、九州・四国地区大学における共同研究に係る間接経費の割合の現状、国からの経常的支援の年々減少による研究活動に対する研究費の配分の現状等を踏まえ、間接経費を5%から10%に引き上げ、引き上げた分については、将来的に研究者への還元を行いたい旨、各学部の教授会等にて説明を行った際、様々な意見が出された旨、説明があった。

次いで、社会連携課長より、佐賀大学における民間機関等との共同研究取扱規程の改正案及び間接経費10%への移行期間・適用時期について説明があった。

次いで、財務課長より、外部研究資金のオーバーヘッドについて、受入の項目の文言修正、オーバーヘッド率の修正について説明があった。

以上3件について、審議の結果、了承された。

7. その他
特になし

○ 報告事項

1. 理工学研究科の設置に係る事前伺いの結果について

企画評価課長より、本件について、工学系研究科システム創成科学専攻博士後期課程を廃止し、理工学研究科理工学専攻博士後期課程を設置するとともに、理工学研究科理工学専攻修士課程を博士前期課程に変更するにあたり、文部科学省へ事前伺いを行っていたものについて、令和2年8月17日付で設置が可能という通知があった旨、報告があった。

2. 令和元事業年度財務諸表の承認について

財務課長より、本件について、令和2年8月31日付にて令和元事業年度財務諸表が、文部科学大臣より承認された旨、報告があった。

3. 全学委員会等の審議状況報告について

渡理事より、令和2年度第2回拡大役員懇談会及び令和2年度第1回情報企画委員会について報告があった。次いで、山下理事より、令和2年度第1回就職委員会、令和2年度第4回学生委員会、令和2年度第5回学生委員会及び令和2年度第2回教育委員会について報告があった。次いで、寺本理事より、令和2年度第1回研究公正委員会及び令和2年度第1回総合研究戦略会議について報告があった。

4. その他
特になし

○ その他

山下理事より、後学期において、十分な感染症対策の下、少しでも多くの時間、学生に本学を訪れてもらい、施設の利用や学生同士・学生と教員の間の人間的な交流等を目的とし、対面授業及び対面でのチューター指導によるスクーリ

ング機会を設ける旨，説明があった。

以上